

# 平和の“声”を上げる

岡山市・岡山朝日高1年 浅川 芽衣



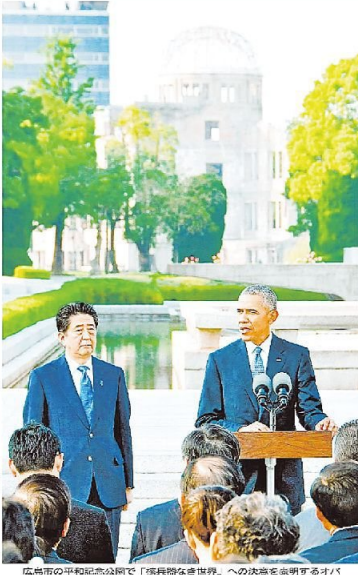
## オバマ氏広島で追悼

**オバマ米大統領の所感ポイント**

- 71年前、原爆の投下で世界は変わった
- 死した10万人以上の日本人と多くの強制労働者、米軍人捕虜を哀悼するのみに来た
- 広島は平和を愛する。記憶は永遠に生きていくべき
- われわれは歴史を担う責任を共有している
- 戦争について考えをめぐり、戦争を阻止するための外交努力を
- 核兵器のない世界を達成する努力を怠らなければならぬ
- 願望は必ず

**安倍首相の所感ポイント**

- オバマ米大統領の広島への歴史的訪問を歓迎。日本の歴史と平和への思いを共有し、世界の人々と心を結ぶ
- オバマ氏が「核兵器のない世界」への決意を新たにし、世界中の人々と心を結ぶ
- 広島市長により再び歴史を語り継ぎたい。核兵器のない世界を築き上げる決意を新たにする
- 日本は核兵器のない世界を築き上げる決意を新たにする
- 核兵器のない世界を築き上げる決意を新たにする
- 核兵器のない世界を築き上げる決意を新たにする



広島市の平和記念公園で「核なき世界」への決意を表明するオバマ米大統領。左は安倍首相。後方3席席ドーム＝27日午後6時44分

### 現職米大統領初訪問

被爆者と交流 謝罪はせず

吉野町、二天塚原など、本所本郷をめぐり、被爆者や関係者らと交流。オバマ氏は「核なき世界」への決意を表明し、広島を訪問した。オバマ氏は「核なき世界」への決意を表明し、広島を訪問した。

### 「核なき世界」へ決意

オバマ大統領が広島を訪問し、被爆者や関係者らと交流。オバマ氏は「核なき世界」への決意を表明し、広島を訪問した。

2016年5月28日付 山陽新聞

「核なき世界」へ決意を表明するオバマ米大統領。左は安倍首相。後方3席席ドーム＝27日午後6時44分

オバマ氏は「核なき世界」への決意を表明し、広島を訪問した。オバマ氏は「核なき世界」への決意を表明し、広島を訪問した。

彼も、かつてはそんな気持ちを抱えていたのだろうか。オバマ大統領が核廃絶を掲

を前にして、平和を願う気持ちと同時に、襲い掛かる自らの卑小感と無力感。戦争は嫌だ、二度と繰り返したくないという想いは当たり前のようにあるのだ。しかし、自分ひとり何が出来たのだろうか。いつか訪れるかもしれないその時に、戦争を止める力なんてあるのだろうか。そんな、半ば諦めのような気持ちに埋め尽くされたのを覚えてる。

だが、果たして本当にそうなのか。これは、全く意味の無いことなのだろうか。私は違ふと思う。なぜなら、彼のこの訪問を巡って、心動かされた者がいるからだ。そして、それを行動に移した者がいるからだ。

私は、彼の広島訪問が実現するまでに、沢山の広島県民の努力があったことをニュースで知った。やっと字を書けるようになった小さな子ども。戦争を体験した、もう字を書くのも一苦労の老人。年齢を問わず、様々な人々からの訪問を願うメッセージが、何千通とホワイトハウスに届けられたそう。

その努力こそが、私たちが今目を向けるべきものだと思う。力なんて無くても、今の自分に出ることをしよう。それは自分の意志を世界に発信し続けることだ。そうやって真っ先に立ち上がったオバマ大統領の任期は、もう終わる。では、これからどうすべきか。答えはもう決まっている。あとに続くのは、私たちだ。全く戦争を知らない、平和すぎる今を生きている私たち自身だ。

しがない一市民の行動など世界を変えるわけがない？そんなことは無いと、今回証明されたばかりではないか。声を上げよう。今の私たちに出来る、最大限の音量で。それはきっと、幾重にも重なって、いつかあの波を超えると信じている。

オバマ米大統領が被爆地・広島を訪問したことの意味を考察し、多くの人の心を動かしたと評価。

### 寸評

平和を願う意志を、だれもが世界に発信し続けることの大切さを訴えています。